

## 主題：キリストのパーソンは信者たちにとって何であるか

メッセージ 15

### 神のすべての武具

聖書：エペソ 6:10-20

- I. わたしたちがどのように召会が神の戦士となって霊的な戦いに従事するかを知りたいなら、宇宙に三つの意志があることを知らなければなりません。それは神聖な意志、サタンの意志、人の意志です：
- A. 神の意志はわたしたちがからだの生活の中で機能することによって（ローマ 12:1-2. ピリピ 1:19）、キリストをすべてとして享受することです（ヘブル 10:5-10）。それはキリストのからだの実際と一のためです（エペソ 1:5, 9, 11. 4:3-4. ヨハネ 17:21）。
  - B. ルシファーの高い地位と美しさにおける高ぶりは、邪悪な意図を起こしました。それはサタンの意志となりました——エゼキエル 28:12-19. イザヤ 14:12-15。
  - C. すべての戦いにはこの意志の衝突にその源があります。サタンの意志が起こって神聖なみこころに相反する前、宇宙には戦いはありませんでした。神の天使長であるルシファーの反逆は、今や各国の間で、社会において、家庭において、個人の中で起こっているすべての戦いの始まりでした——参照、啓 12:3-11. ガラテヤ 5:17。
  - D. 命の木と善悪知識の木はそれぞれ、神聖なみこころとサタンの意志を代表します。極めて重要な問題は、人が神聖なみこころを選ぶか、サタンの意志を選ぶかです——創 2:7-9。
  - E. 悔い改めることを通して、人はサタンの意志から神聖なみこころに、すなわち、サタンの側から神の側に向きを変えます——使徒 11:18。
  - F. 聖書は、わたしたちが王国のために悔い改めなければならないと言います（マタイ 4:17）。神の王国は実は神聖なみこころを行使することです。罪人たちが神の王国のために悔い改める時、彼らはサタンの側から神の側、すなわち、神の王国、神のみこころに向きを変えました。
- II. エペソ第6章10節から20節は、キリストが神の武具の構成要素であることを啓示しています：
- A. 「最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです」—— 10-11 節：
    - 1. わたしたちが主の中で力づけられる必要があるという事実は、わたしたちが自分自身で霊的な戦いをすることができないことを示しています。わたしたちは主の中で、また彼の力強い大能の中でのみ戦うことができます。
    - 2. 神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためであ

って、からだのいかなる個々の肢体のためではありません。わたしたちは個人としてではなく、からだの中で戦わなければなりません—— 10-13 節. ヤコブ 4:7. 参照、ピリピ 1:19. ローマ 13:12-14. 16:20。

3. エペソ第 2 章で、わたしたちは天上でキリストと共に座ります。第 4 章と第 5 章でわたしたちは地上で、キリストのからだの中で歩きます。それから第 6 章でわたしたちは天上で、彼の力の中で立ちます。
4. キリストと共に座ることは、彼のすべての達成にあずかることです。キリストのからだの中で歩くことは、神の永遠の定められた御旨を成就することです。そして彼の力の中で立つことは、神の敵に対して戦うことです。

B. 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め」—— 6:14 前半：

1. ここでの「真理」は、わたしたちの生活における実際としてのキリストにある神を指しています。すなわち、わたしたちの生活においてわたしたちが認識し経験する神です。これは実はわたしたちが生かし出すキリストご自身です—— 4:15, 21, 24-25. ヨハネ 14:6。
2. わたしたちが腰に帯として締めた真理は、実はわたしたちが経験するキリストです。パウロの生活はキリストの模範に同形化されていたので、パウロはすべての反対と逆境に直面する力を持っていました——エペソ 4:20. ピリピ 1:19-21 前半。

C. 「義の胸当てを身に着け」——エペソ 6:14 後半. I コリント 1:30. エレミヤ 23:6：

1. 義の胸当てとしてのキリストは、胸によって表徴されるわたしたちの良心を覆います。わたしたちを訴える者であるサタンに対して戦うことにおいて、わたしたちは血によってすすがれた良心、とがめのない良心が必要です——ヘブル 9:14. 10:22. 使徒 24:16。
2. 「兄弟たちは、小羊の血のゆえに、……彼に打ち勝った」(啓 12:11)。サタンの訴えに対するわたしたちの応答は「わたしが訴える者であるサタンに打ち勝つのは、わたしの完全さによらず、さらにはとがめのない良心にもよりません。それは小羊の血によります。わたしは義の胸当てによって彼の訴えから守られています」。

D. 「平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい」——エペソ 6:15:。

1. キリストは十字架上で、神と人の両方をと共に、わたしたちのために平和を造りました。そしてこの平和はわたしたちの福音となりました。平和の福音は括弧とした土台として、わたしたちの足にはく備えとして確立されました—— 2:13-17。
2. わたしたちは平和の中で立つことによって霊的な戦いをします。もしわたしたちがわたしたちと神との間の、あるいは、わたしたちと他の信者たちとの間の平和を失うなら、戦う立場を失います——コロサイ 3:15。

E. 「なおその上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます」——エペソ 6:16.

II コリント 4:13. ヘブル 12:2. 参照、ピリピ 2:13：

1. 燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。わたしたちは信仰の盾を取って、これらの燃える火の投げやりを消す必要があります。
  2. わたしたちは、わたしたち信仰の霊と服従され復活させられた意志を活用して、主の現れが悪魔の働きを減ぼしたことを信じる必要があります——Ⅱコリント 4:13. Ⅰヨハネ 3:8. マタイ 16:22-23. ルカ 4:39. マタイ 12:28. ルカ 10:17, 19.
  3. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の死がサタンを減ぼしたことを信じる必要があります——ヘブル 2:14. Ⅰコリント 15:54-58. ガラテヤ 2:20. ローマ 6:3-6.
  4. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の復活がサタンに恥を被らせたことを信じる必要があります——コロサイ 2:12-15, 20. 3:1. ヨハネ 14:30. ピリピ 3:10. イザヤ 61:10. ゼカリヤ 3:4-5.
  5. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の昇天がサタンの力のはるか上にあることを信じる必要があります——エペソ 1:19-23. 2:6. 6:11, 13.
  6. わたしたちは神への信仰を持たなければなりません。神は真の、生ける、現在の、便利な方です——マルコ 11:22. 啓 1:18.
  7. わたしたちは神の心に信仰を持たなければなりません。わたしたちに対する神の心は常に良いのです。神にはわたしたちを懲らしめたり、傷つけたり、わたしたちに損失を被らせる意図はありません——ローマ 8:28-39.
  8. わたしたちは神の信実に信仰を持たなければなりません。神はうそをつくことができず、常にご自身の言葉に対して信実です——Ⅰコリント 1:9. Ⅰヨハネ 1:9. テトス 1:2.
  9. わたしたちは神の能力に信仰を持たなければなりません——エペソ 3:20.
  10. わたしたちは神の言葉に信仰を持たなければなりません。神はご自身が語られたすべてを成就するよう縛られています——参照、Ⅰテサロニケ 5:24. エペソ 6:17-18.
  11. わたしたちは神のみこころに信仰を持たなければなりません——1:5, 9, 11.
  12. わたしたちは神の主権に信仰を持たなければなりません。神の主権の下で、わたしたちの失敗でさえ働いて益となります——ローマ 9:19-29.
- F. 「救いのかぶとを受け取りなさい」——エペソ 6:17 前半：
1. 救いのかぶとは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、わたしたちの思い、知性を覆うためです。このようなかぶと、このようなおおい、神の救いです。
  2. サタンはわたしたちの思いの中に、脅迫、心配、思い煩い、恐怖、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗してわたしたちが取るおおいです。このような救いは、わたしたちが日常生活の中で経験する救うキリストです——ヨハネ 16:33.
- G. 「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を……受け取りなさい」——エ

ペソ 6:17 後半 :

1. 神の武具の六つの項目の中で、その霊の剣だけが、敵を攻撃するために用いられるものです。わたしたちはその剣で敵を切り刻みます。
  2. その霊と言葉としてのキリストは、敵を打ち破って殺すために、攻撃の武器としての剣でわたしたちを装備します。
  3. 「ロゴス」(聖書の恒常的な言葉)が「レーマ」(その霊の現在の即時的な生ける語りかけ)となる時、その「レーマ」は、敵を切り刻む剣としてのその霊です。
- H. 「すべての祈りと願い求めによって……どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」—— 18 節 :

1. 祈りは神の武具の七番目の項目と考えられます。なぜなら、それはわたしたちが他の項目を適用するための手段であるからです。
2. 祈りは、神の武具としてのキリストを適用する唯一の道です。武具を実際に利用できるようにするのは祈りです。
3. わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。なぜなら、祈りは、戦い、争いと関係があるからです。神とサタンの二者は、互いに敵対しており、第三者は神の選ばれ贖われた民から成っています——コロサイ 4:2. エペソ 6:18. マタイ 26:41. 参照、エペソ 5:14. ローマ 13:11-14.
4. 神の側でサタンに敵対して戦うために、わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。このうまずたゆまず祈ることが必要であるのは、全世界の方向が神から遠く離れているからです—— I ヨハネ 5:19. 参照、ヨハネ 14:30. 16:33.
5. わたしたちはうまずたゆまず祈ろうとする前に、まずわたしたちの祈りの生活について主に誓願を立てるべきです。わたしたちは彼に祈り言う必要があります、「主よ、わたしはこのことについて死にもの狂いです。わたしは自分自身をあなたにささげます。それは、わたしが祈りの生活を持つためです。主よ、祈りの霊の中にわたしを保ってください。わたしがこのことを忘れ、軽視したとしても、あなたはそれを忘れないことをわたしは知っています。わたしに祈りのことを何度も思い起こさせてください」:
  - a. 祈りは、わたしたちが思いを上にあるものに置くことができる唯一の道です——コロサイ 3:2. ヘブル 7:25. 8:2. 参照、使徒 6:4.
  - b. 祈りとは、至聖所の中へと入り、恵みの御座に進み出るための道です。それは、わたしたちがあわれみを受け、恵みを見だし、わたしたちの時機を得た必要を満たすことのできるためです(ヘブル 4:16)。わたしたちが祈り、恵みの御座に近づくと、恵みはわたしたちの中で流れる川となって、わたしたちを供給します——詩歌 557 番。
  - c. わたしたちは祈れば祈るほど、主と一であることをますます経験し、ますます彼の臨在を享受し、彼との交わりを持ちます。何というすばらしい褒

賞でしょう！

© 2012 *Living Stream Ministry*